八月十五夜
九月十三夜

紀長度改　下花園四丸

ゆふしくれちらひ続くも畑引もいの細乃月れ経吉
朱枚亭角住改　震為亭音高

月かさよせあくい移をふめてもや於菟乃浮世とゆかりも
由目出亭改　吾乃汗拙彦

三ずいふひゝれ雨ふるふてもさほふそしき秋のさゝ月
五葉志ゝ改　十八亭梅戸

○
紫月よりまさきれゝる永き代の橋もかゝる長月の月
捨斎亭造

川風ふそ吹きわたる蝋そくれなきゆくまゝの月を見通し
福禄堂七国

くものなき空ふ月ふらゝそて見れハ汐を吹みの浦の月影
潮清常

扎家くゝみなかるひせしきしかりも此ちとゝ汐のよるさゝし形の月
美中條春芳

月のさゝ宵ハよ木へ来り山赤く廣くりにふけのさそりよ
秋風亭稲葉

○
てる月にひきうるや移りも三上山とこえて辰巳へかゝる永さし
唐橋和足

科埜沼いろふむしろを志きさゝへのちるもれて何ぞ十五夜月
白雀亭羽風

さほふ乎ふみをふりて漏刻のさてる月ふ時をうつし川
一巻亭長文

いもうきぬめ上へきりの玉山寺此ゝり小男のさほ月ふのみ
弥江亭蔓道

酒の中人歩ふとゝる社ふゝりし月の桂馬のさらゝかゝり
不破冥人

おかりし白手紙のちる月影ふかくまゝや半押のまる
石上舎也

さし汐ふ三五の月乃ふゝ出て我身ふらゝまゝりし祭りし
富士常行

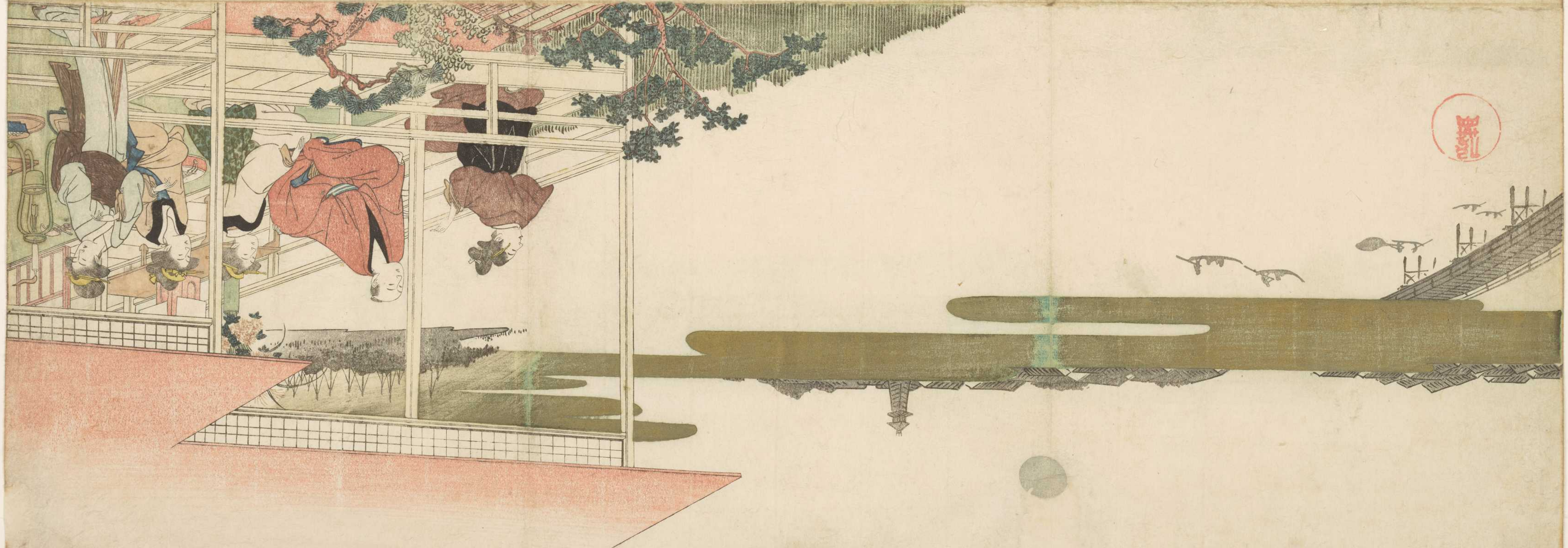
さゝし水や田毎ふゆゝくさしぬきいふらひの月をいらまかす
竹葉亭足住

石山も田毎もけしきのしきかさしてちりゝぬ窓の月影
客辺菴さほ丸

○
おもふれのいろよりかきさゝふの月秋の中庭のむさくいなの影
音友軒米人

松浦の松かのいちゝ千両と積もさし汐の月の影照
花の屋道頼

森うふ月の夜舟乃まゝ川（藻なふ揺もふ手をかず）
尚左堂俊満

まひゆくうろふてうるぎんぐのすぎんのおちる月の夜馬